

令和８年度 第２回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和８年６月１８日（木）午前９時３０分～午前１１時

ところ：市役所５階 ５０５会議室

１ 出席者

小平市社会教育委員 １０人

傍聴者 なし

２ 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (１) 令和８年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会（報告）
- (２) 令和８年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第１回役員会・拡大役員会（報告）
- (３) 令和８年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (１) 夏季休業期間中の学校施設遊び場開放事業における実施場所等の変更について
- (２) 令和８年度姉妹都市小平町との少年少女交歓交流事業（予定）
- (３) 令和８年度非核平和学習事業（予定）

【公民館】

- (１) 令和８年度小平市立公民館事業計画
- (２) 公民館主催イベント５月について（報告）
- (３) 令和７年度小平市立公民館事業実績

【図書館】

- (１) 図書館主催イベント（４月～５月）について（報告）
- (２) 図書館主催イベント（６月～８月）について（予定）
- (３) 令和７年度小平市立図書館事業統計

3 議題及び事務局報告についての意見・質疑応答

○委員 図書館長に伺うが、貸出の推移を見ると、昨年度比が減のところが多い中、上宿図書館、大沼図書館が増えている。これは独自の何かいい取組があるのか、あったら教えて欲しい。

○事務局 全体的に減っている要因としては、令和7年度に図書館システムの入替えがあり、全館で2週間程度休館があった。その関係で、全体的には数字が減っている状況であるが、ひと月平均は、大体2週間を除いた割り戻しでいくと令和6年度と同じぐらいになる。

上宿図書館の要因としては、隣の東大和市で休館等があり、東大和市の方が上宿図書館に借りにいったのではないかと推察される。

○委員 データになりスムーズに見ることができて良かった。公民館と図書館に意見がある。創作体験の導入ありがとうございます。文部省から支援教育という指針が出て、東京都が導入し、小平もその後導入していくと思うが、こどもの想像力を養う上ではパソコン、スマートフォンだけではなく、しっかり自分で考え、発表し、課題を創り出すことが大事である。そのためにも進めてほしい。

また、高齢者のデジタルデバイドの対策も本当にありがたいことである。デジタル格差、非常に気の毒に思う。市内でデジタル関係の相談教室をやっているが、高齢者は大変な状況であるため、合わせてお願いする。

私の意見だが、貸出数や登録者数は減少している。図書館は単なる本を得るための貸し出し、道具提どもの場ではなく、深く考えて理解する学びの教育の場として必要であると考え。

しかし情報収集はインターネット、学習は動画、ニュースはSNSで見るというように現代においては、情報の入手ルートが多岐にわたっているので図書館の利用は減っている。

これからは学びの場としての図書館、対話する場所、地域住民が交流する場所としての利用を進めていくことを望む。

○事務局 貴重なご意見ありがとうございます。そのとおりで、近年の図書館の在り方としては、滞在型の図書館というのは、全国的に言われている。デジタルで読める電こ図書館もあるが、その一方で、図書館に来てそこで人の交流が生まれる。学習に使う、本に親しむということも重要視されている。その観点で言うと、小川駅西の新しい建物については、交流できる場所であり、開館時間の延長、駅前に移転などの数々のメリットもある。

また、新たな試みとして、指定管理者も入るので、指定管理者とよく対話をしながら、意見等を反映できるように、今後も事業等に取り組んでいきたい。

○委員 この統計を見てすごいなと思った。小平市人口約20万人の中の13万人が登録しているということは、市内に在留する方々の68%が登録をしている。確かに利用者は減ってはいるがすごいと思う。1日当たり約5,000冊が動いている実態も信じられない。小学生の利用が多いと予想したが半分である。それに対して41歳から65歳が多い。

地域の方々と公民館事業を一緒にやる中で、40代から65歳ぐらいの方々を何とか地域に呼び込み、特に65歳過ぎて地域に戻っていった方々をもっともっと地域に活性化して、学校とか

公民館と結びつけてできないものかと考えていた。

多くの65歳の人たちが図書館に行っているのではないか。ここに何か一つ、まちを活性化するヒントがありそうと思った。

図書館ではたくさん人を呼ぶためのキャンペーンや工夫、実際本が毎日5,000冊動いているという、これを動かしている工夫など、または小平市民の気質などあったら教えてほしい。それがまた、学校としても、また地域を動かしていく何か原動力、何かヒントになりそうなので聞きたい。

○事務局 市民がおよそ20万人で13万人という登録者数であるが、これは過去に登録して、今は市外に転出の方や亡くなった方、またカードが5年間有効であり、それも含んでいる数字で、実際動いている数字としては、かなり少ない数字になると考えられる。

一日5,000冊程度動いているというのは、小平市はもともと図書館や、公民館、社会教育関係にかなり意識が高い住民の方がかなり多く存在し、図書館というのも、近隣市に比べるとかなり多い数があり、かなり先進的な取組を以前から続けていたということがある。図書館に行つて本を読むということが習慣づいている市民の方が、かなり多いということである。

利用者数が多いのは中央図書館が一番多く、その次が花小金井図書館である。花小金井図書館は利便性が非常によく、また、近隣の6市で借りられるので、ほぼ中央図書館と同じぐらいの利用があり冊数が多く動いているというところである。

喜平図書館は、国分寺市境ということで、地域的要因と、もともとの気質、図書館を利用するという習慣がある方が多いので、かなり冊数が多いと考えられる。

また、小川西図書館は駅前でもあるため、利用が増えるようにいろいろな連携をしながら人を呼び込み、図書館に親しんでもらう取組をさらに進めていく考えである。

○委員 本当に図書館はすごく重要である。市民はもちろんだが、他市町村の方が見て、この市はいいなと思う代表的な例だと思う。学会などの出先では、必ず図書館が目に入る。近隣だと、立川市は、女性センターができて、高島屋辺りから入れる図書館ができたときはすごいなと思った。立川市の人口が増えたことによることだと思うが、小平市もぜひ頑張っていたきたい。よろしくお願いします。

ほかに何か、ご質問等はあるか。

○委員 公民館の事業実績の3ページ、それに関係して19ページを参照されたい。3ページの高校生事業企画委員会企画で、高校生が中央公民館で事業企画をやっているというのは非常に珍しい。他市ではほぼ無いに等しいことである。高校生が考えたものづくりやワークショップ、小平版人生ゲームを小学生などを対象に行っているという。まだ若い高校生が、公民館に関わりも持ち、小学生と触れ合うというのは、小平独自のすごく良い企画である。今後ますますこれを発展させていきたい。

○委員 関連であるが、同じく公民館の高校生による事業企画委員会について、開催場所として中央公民館だけというのはもったいないことである。企画の委員会の設置場所は中央公民館で良いが、開催する場所を可能であれば、西の方で1回やってみるなど、他もあるとありがたい。

○事務局 高校生事業企画委員会は、先日、今年度初めて全体会を開催した。参加した高校生は30名ぐらいである。生徒会の方が多いため、文化祭や入学式などの行事もあり、日程調整から苦労している。今年度は館全体でのイベント開催という案が出ている。何人で行えるか、どんな意見が出てくるか見当がつかないが努力していく。

○委員 例えば、公民館でやっているオンライン学習などがあるが、若い子どもたちはすぐ順応できると思うので、デジタルツールを使った会議というのはできないものか。

先ほど委員から提案があったように、何箇所かで開催するというのも良いが、タイミングも大事である。何回かに1回はみんなが参加できるようにZoomでの開催も考えてほしい。

○事務局 基本的に全体会は2回なので、小グループで実行していくことになる。オンラインも使ってやっていくことにはなるが、やはり皆さん、顔を合わせたいと思っている。そこは使い分けていきたいと思う。

○委員 今のことに関連して、いろいろ難しい点あるが、どうやったらできるのか、もっといいものはできないのかというところで頑張っていただきたい。

2012年頃、私が放課後子ども教室のコーディネーターを務めていたときに、職員から、高校生が地域で先生になる、高校生ティーチャーという活動を始めた際に、小平第十四小学校に参加し、協力させてもらった。なかなかうまくいかないようだったが、そこから何か始めようというエネルギーが生まれた。当時の中央公民館長は個人的に高校とつながりたいということで小平高校に行った。そういう熱意があって道が開けた。中央公民館長にもぜひ、どうぞよろしくお願いいたします。もっと良いものを。

○委員 私からは、感想とお願いだが、まず資料No.5を参照されたい。なかまちテラスまつりに17日の日曜日に参加した。とても天気がよく、暑いぐらいだったが、狭い敷地でもすごく工夫されていた。テントを張って、駐車場にはいろいろな出店があり、売りこさんが小学生だったり、中学生がボランティアをしていた。すごくにぎわっているところと、ゆっくり作品が見られるような落ち着いたところもあり、そのギャップがまた面白いと思った。本当に公民館ならではの、いろんな方の参加もあり、楽しくて温かい気持ちになって帰ることができた。ありがとうございました。

お願いだが、資料No.6の公民館事業計画の1ページに、基本方針の2番目に学びの還元についての記載がある。これに関連して、8ページにも公民館利用団体の育成支援で、地域の人材育成や団体のサークル化についての記載がある。先ほど、議長挨拶にも地域にはいろいろな力が潜在しているという話があったが、ぜひ、学びの還元をもっとアピールし、放課後子ども教室などにつなげていき、もう今もされているとは思いますが、そういうサークルとその団体の背中を押しつつ、世代交流がもっと深まることを望む。よろしくお願いします。

○委員 今の話で昨年度、色々なイベントを予定、開催する上で、近隣の小学校の運動会などの日程で、公民館まつりがあるので、利用しにくいのではないかという知らせをしたが、今年2月ごろ、来年度に向けてということで、公民館の方からよさこいの誘いがあった。反映されていると思われる。どうもありがとうございます。

○委員 また図書館に戻るが、感想と質問がある。感想は、私も今は小平を離れている立場になるが、やはりこんなに図書館がある市はないと離れて改めて思う。当時は三か所の図書館に行くことができたことはある意味幸せである。多数ある中で、どこに返却しても良いというルールはとても使いやすかったと改めて思う。

質問は2点ある。たしか、喜平図書館に過去に使われていた学校の教科書が所蔵されていると思うが、それは今でもされているのか。市内の児童養護施設に勤めていたときに、借りたり、見たことがある、今でもなくなっていなければありがたいと思う。

もう一つはリサイクルブックである。資料No.8の24ページに記載されている除籍冊数であるが、その全てがリサイクルブックになっているのか、それとも、この中で分けられているのか。そして出したものが基本全てなくなっているのか、誰にももらわれずに残っているのか状況を知りたい。

○事務局 感想、ありがとうございます。本当に図書館が多くて、本が多いというところが一つの目指すところであるので、今後も取り組んでいきたいと考える。

喜平図書館の学校教科書の質問は、私が今、分かる範囲だと、教科書検定を通過した最新の教科書は、今現在も喜平図書館に所蔵している。

続いて、ブックリサイクルの関係であるが、除籍のものが全てブックリサイクルというわけではない。除籍したものはかなり傷んでいるものもあるので、職員がその中からリサイクル可能な本を選び、ブックリサイクルに出したり、小平市立保育園など市の施設にリサイクルとして提どもしているというような状況である。他は、廃棄をしている。

○委員 感想である。図書館がすごく充実しているという話が多くあり、館長の方からも滞在型図書館を目指すという話があったが、私も以前よりお茶ができる図書館が理想であり何回かそういう話もしたことがあるが、実際、構造上やスペース的にも無理なところも多い。

しかし、職員には利用者に対する愛が感じられるので、職員の熱意といろいろな工夫で、疑似滞在型図書館みたいなのも目指せるのではないかと思われる。

○事務局 ご意見ありがとうございます。中央図書館にはご意見箱を設けているので、本や展示物のリクエスト、企画のアイデア、職員の対応についての感想、意見を寄せてほしい。

意見箱に寄せられたアイデアや意見をもとに運営していきたいと考える。

○委員 資料No.5の2番目の地域学習支援課の平和学習事業について、参加者が、昨年度は15人から今年は10人に減ったが何か理由はあるのか。

○事務局 昨年度は、戦後80年の節目の年ということで、定員を5名増やして15名とした。本年度は通常ということで、例年どおり定員10名である。

○委員 分かりました。ありがとうございました。平和学習事業は本当に関心が高い事業である。チラシも別に入っていますよね。後でこれ説明いただくのかなと思います。